2026_1026「北軽井沢の秋」日々の理科 4460 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

10 月も中旬になると、北軽井沢の高原はすっかり秋の装いになります。標高約 1250 メートルに位置するこの地域は、真夏でも比較的涼しく、秋の訪れも平地よりひと足早くなります。朝晩には気温が一桁まで下がる日も珍しくなく、木々の葉は日ごとに鮮やかさを増していきます。写真のモミジも、緑色から黄色、橙色、そして赤色へと美しいグラデーションを見せています。紅葉は、気温の低下とともに葉緑素が分解され、それまで隠れていた黄色の色素が目立つようになり、さらに赤い色素が生成されることで進んでいきます。

この日の空も見事でした。抜けるような青空に、白い雲が細かな波を描くように広がっています。波状巻積雲と呼ばれる雲で、上空の風や大気の波動によって、このような規則的な模様が生まれます。巻積雲は高度およそ 5000～13000 メートルに現れる上層雲で、主として小さな氷の結晶からできています。秋の空が高く感じられるのは、こうした上層の雲が広がることも一因でしょう。

北軽井沢の秋の魅力は、紅葉の美しさだけではありません。湿度が低く、澄み切った空気の中では、木々の色彩も空の青さも、いっそう鮮明に感じられます。真夏には避暑客でにぎわった高原も、少しずつ静けさを取り戻していきます。頭上には波模様の白い雲、目の前には陽光を浴びて輝くモミジ。深呼吸したくなるような、すがすがしい高原の秋のひとこまです。

（2026 年 10 月中旬／北軽井沢）

